

国内医学部における，学内刊行誌・紀要誌の計量的分析

－Open Access Journal としての現状－

城山泰彦 (KIYAMA Yasuhiko)
順天堂大学学術メディアセンター

I. 背景と目的

国内の医学部で発行される学内刊行誌や紀要（以下，学内誌）は，医学部に関わる大学の医学図書館員にとって，もっとも身近な存在の学術雑誌といえる。原著論文が中心，会議録が中心，国際誌志向，コミュニケーション記事重視，発表機会や学位論文の受け皿など，その性格や位置づけは様々である。それらの学内誌は，学術雑誌の電子化や Open Access (OA) 化が進む近年，どの程度刊行されており，電子化や OA 化が進められているのか？ その現状を探るため，学内誌について計量的な分析と考察をおこなった。

II. 調査方法と調査項目

調査対象は，2017 年 2 月時点で医学部から継続的に刊行されている，医学分野一般を扱う学内誌とした。ただし，廃刊・休刊となった学内誌，一般教育・一般教養や特定の分野のみを扱う学内誌，特定の施設・部門のみを扱う学内誌は対象外とした。データ採取にあたり，大学図書館・大学・医学会等のウェブサイト，機関リポジトリ，データベース等を参考に調査した。その結果，80 医学部の 92 誌を対象に，計量的な分析をおこなった。

調査項目は，刊行状況，創刊年，掲載言語，電子化状況，OA 状況，記事区分ごとの掲載文献数，刊行頻度，文献データベース収載等，である。

III. 結果と考察

刊行状況は右図の結果となり，11 大学 (13.8%) で学内誌が刊行されていなかった。最も多いのは和文記事と英文記事を混合した学内誌を刊行する 29 大学 (36.3%)，次いで和文誌と英文誌を並立して刊行する 23 大学 (28.8%) となった。

継続前誌を含む創刊号からすべての号を OA としている学内誌は，32 大学 (40.0%) の 38 誌 (41.3%) にのぼった。掲載言語別にみると，欧文誌 17/28 誌 (60.7%)，和英混合誌 9/29 誌 (31.0%)，和文誌 12/35 誌 (34.3%) となり，言語による違いがみられた。また OA の割合を創刊から 2017 年までの年単位で算出すると，英文誌 75.2%，和英混合誌 50.2%，和文誌 42.4% となった。本調査をとおして，学内誌の現状や OA 状況を分析して検討したい。

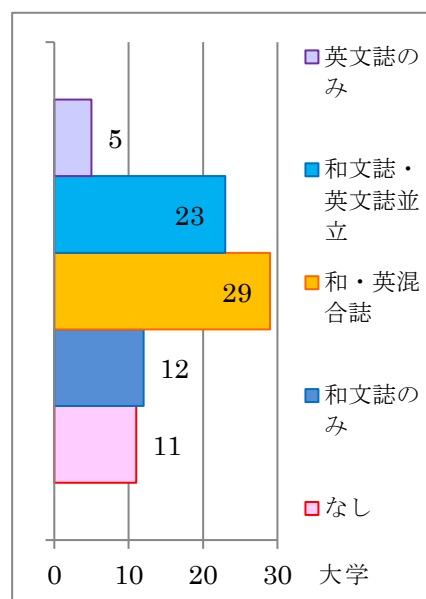


図. 学内刊行誌発行状況